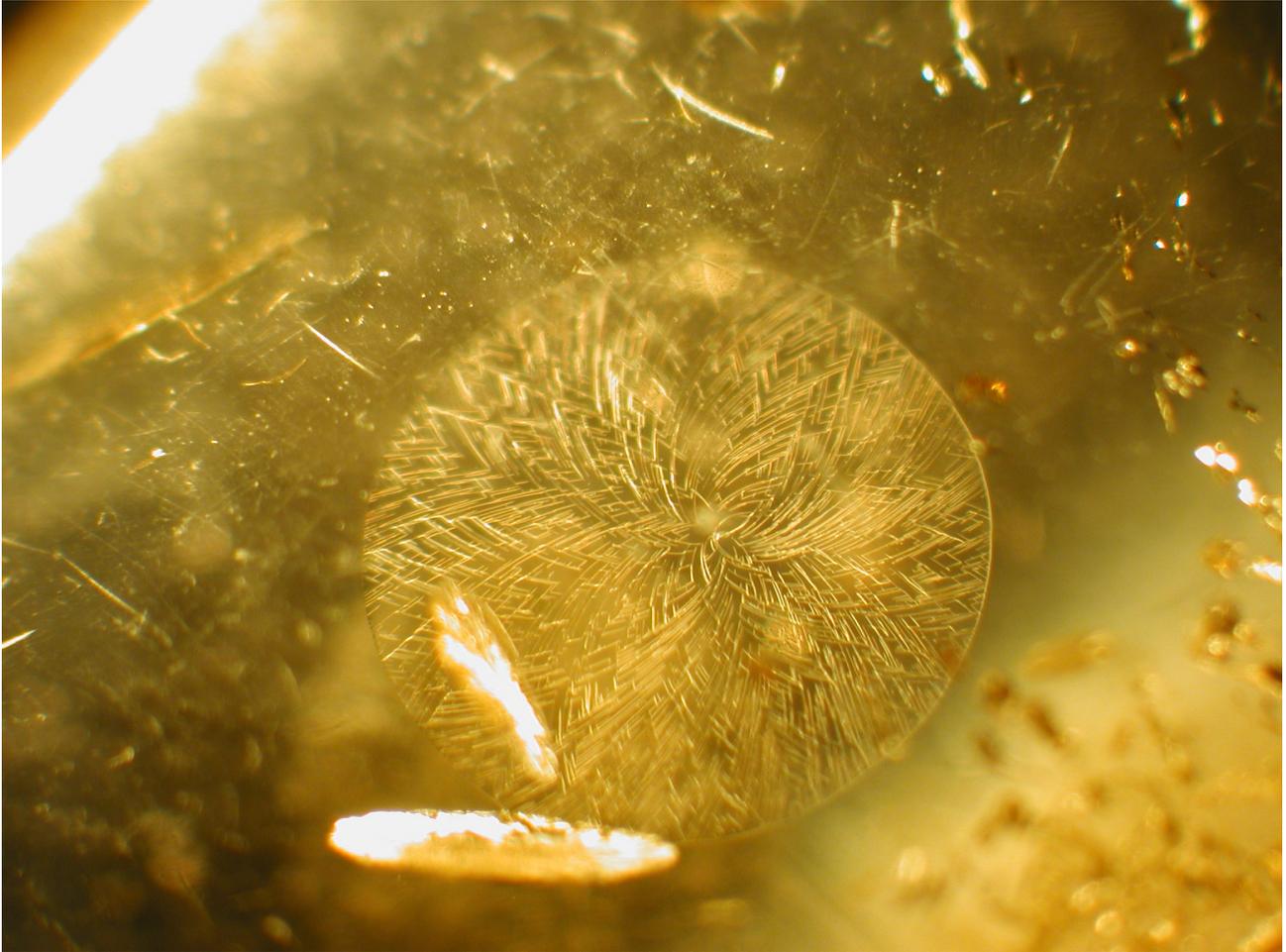


「コハク中のサンスパングル」



撮影・文： 高橋 泰（倍率×62で撮影）

コハクは樹脂の化石である。何万年（最低でも1千万年以上）も地中に埋もれて年月を経たものだ。現存する樹木の樹脂は化石ではないのでコパル樹脂と称して区別される。プラスチックを合成樹脂と呼ぶが、石油産業が盛んになる前はこのコハクが天然のプラスチックであった。軽く加工し易く肌触りの温かいコハクは様々な装飾品に利用された。天然のコハクの中には濁ったものがあり、圧力と熱をかけると透明になることが古くから知られていて、この処理をすると閉じ込められた気泡が破裂しクラックを生じる。このクラックに光が当たると綺麗に反射するため、“サンスパングル”（直訳で、太陽のきらめき）と呼ばれる。このクラックがあると輝いてより綺麗な為、処理石であっても多く利用されている。写真は中でも花びら状に割れた美しいクラックである。人為的に発生したものではあるが、割れ方は偶然の産物であり自然と人の共同作業で生み出されたといってもいいと思う。